

老化予防のためのレジリエンス指向 デジタル・バイオマーカー開発 被験者募集説明会

年齢とともに低下する“聴こえ”の力（聴覚）と、脳の働きとの関係については、まだ十分に分かっていません。これからますます進む超高齢社会に向けて、年を重ねることで起こる脳への影響を知ることが、体の動きや物忘れの予防にもつながる大切なヒントになります。また、加齢によりストレスなどへの「回復力（レジリエンス）」も低下すると言われていますが、それが脳や筋肉のはたらきとどう関係しているかは、まだよく分かっていません。今回の取り組みでは、こうした疑問を科学的に明らかにし、効果的なリハビリテーションを開発することを目指しています。

内容：1回2時間程度の脳波などの計測（謝金：Quaカード2,000円）

対象者・65歳以上の男女

- ・ 日常生活が自立している方(補助具なしで歩行可能)
- ・ 補聴器をつけていても大丈夫です

研究内容説明会

※ご予約不要です。

5月19日（月）14-15時

5月21日（水）14-15時

5月22日（木）14-15時

研究代表者：

名古屋市立大学医学部保健医療学科

リハビリテーション学専攻

教授 野蔭一平

会場：緑区鳴子町1－8（鳴子団地内）

名古屋市立大学鳴子コミュニティ・ヘルスケア
教育研究センター（鳴子CHCセンター）

問い合わせ先： 名古屋市立大学大学院医学研究科リハビリテーション医学分野
(担当:石田)

TEL：070 - 4448 - 6985